

2022年度

事 業 報 告

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月31日

公益財団法人 正 力 厚 生 会

〔がん患者支援事業〕 計2140万1073円（予算2421万円）

＜患者団体への助成＞

全国のがん患者会や支援団体を対象に一般公募で活動資金を助成する事業で、32団体に助成した。新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返され、病院内での活動や人を集める講座、サロンなどの開催が困難となったため、前年度に続いて事業期間の1年延長を認めたところ、5団体が申請した。

残る27団体からは、オンラインやハイブリッド形式に工夫したセミナーの開催や、患者向けタオル帽の製作指導と寄贈といった事業の報告書が届いた。コロナで患者団体等に対する企業や個人の寄付が減る中、本来なら財政基盤が安定しているはずの全国規模の団体の助成申請にも応えたのが、当年度の特徴となった。

（予算911万円、支出903万1738円）

＜医療機関への助成＞

がん情報ギフト発展プロジェクト（500万円）

図書館へがん情報の冊子セットを寄贈し、地域の拠点病院との連携を図って、図書館に正しいがん情報普及の窓口役を担ってもらう事業。一般からの寄付を基にした国立がん研究センターの「がん情報ギフト」事業の発展強化を目指し、2019年度から助成を始めた。

2022年度は同ギフトの活用を啓発する「結ぶ事業」として、秋田、埼玉、岐阜、三重、大阪の5府県で、図書館とがん診療の拠点病院や自治体の保健医療担当部が連携したイベント開催などが行われた。また、国立がん研究センターでの同事業開始5周年に当たることから、22年10月8日に同センターで記念フォーラムが開催された。さらに、がん関連書籍・展示パネルの巡回展示は年度末までに105図書館に達した。

がんの在宅療養支援プロジェクト（500万円）

帝京大学医学部などによる「がんの在宅療養支援プロジェクト」は、看取り期を重点に在宅療養を支援してきたが、発病からの全般的な在宅療養支援に間口を広げることとなった。2015年度制作の冊子「がん患者さんご家族をつなぐ在宅療養ガイド」も、診断から通院・経過観察中の療養を含めた新版に改訂すべく、助成を基に編集が始まった。

現在、大きく増える章立ての構成は決まり、「アピアランスケア」「仕事と治療の両立」といった新項目の原稿はほぼ整ったが、書籍化に向けた出版社の選定が難航している。このため、2015年版と同様にまずウェブ上でのPDF版公開を目指すことになった。

（予算1000万円、支出1000万円）

<読響ハートフルコンサート>

がん患者やその家族の心を癒すため、読売日本交響楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣し、弦楽四重奏などを披露する事業。一流オーケストラの楽団員による生演奏は、どこの会場でも大変喜ばれている。ただし、2020年度からは新型コロナウイルス感染拡大で開催中止が相次ぎ、22年度も当初予定した全国8病院中、開催できたのは3病院にとどまった。

(予算510万円、支出236万9335円)

以上